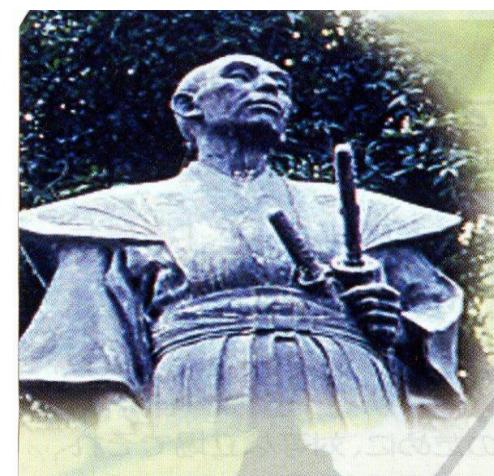


横井小楠

—その業績と生涯—



小楠は沼山津^{ゆやまづ}に私塾四時軒を建てました。現在の横井小楠記念館です。「その昔、小楠が眺めた山と川そして空と雲、それらを通して、小楠とその家族及び門下生たちの魂がこの新しい四時軒で再会しているような気分にひたります。」(来館者ノート「旅日記」より)

10 沼山津転居と開国論

小楠は安政2年(1855)5月、47歳の時に沼山津に転居しました。当時の沼山津は、竹林に囲まれた農家が点在するさびしい村でしたが、塾からの眺めは素晴らしく四季折々の風景を楽しむことができました。小楠が開いた塾を「四時軒」(四時=四季)と名付けたのも、うなづけます。

小楠の沼山津転居の理由として、①苦しい家計 ②米田是容との絶交 ③一時的な隠棲^{いんせい}などが挙げられます。友人への手紙に「この数年、種々の病災^{はなは}で家計が甚だ苦しい」とあり、経済上の問題が主な理由のようです。このころの肥後藩の財政は大変苦しく、藩士の年俸(1年間の給与)の実収入は2割以下だったといいます。そのため藩では、出費の多い城下を離れて在(農村)に移りたい者に「在宅願^{ざいたくながい}」を発行し、許可制にしました。小楠もこの制度を利用したと思われます。

さて、熱心に攘夷論^{じょういりん}を唱えていた小楠でしたが、沼山津に転居後、「開国論^{かくこん}」を主張するようになりました。嘉永6年(1853)、日本に通商(貿易)を求めて、アメリカやロシアの軍艦が来航した時、小楠は「夷慮応接大意^{いりよあうせつたい}」をつくり、その中で「開国はすべての人が守るべき道である。そのためのわが國の方針は、公平で正しい道を守る国とは通商を許すが、侵略を目的とする国とは交流を拒絶するの二つしかない。すべて拒絶するのは世界の信頼を失う」と語っています。



▲当時の四時軒

その時の事態の変化に応じて物事を取りさばく小楠にとって、思想の移り変わりはむしろ当然のことでしたが、急に開国論に豹変した小楠から離れていく同志や友人も多くいました。しかし、小楠は周辺の評価には少しも執着しませんでした。

ところで、小楠は安政3年に矢島つせ子と再婚しています。3年前に結婚したひさが急に亡くなったためです。矢島家は益城郡杉堂^{やじま}(現在の上益城郡益城町)在住の郷士で惣庄^{ごうし}屋も務めた家柄でした。横井家に嫁いだつせ子は小楠のためによく尽くし、苦しい家計でしたが一家は円満でした。後に長男時雄と長女みやが生まれています。また、

姉順子^{ちゆんこ}や久子^{ひさこ}は小楠門下生の妻になっています。



▲妻 つせ子

*沼山津 … 江戸時代は沼山津村、のちに上益城郡秋津村となり、昭和29年に熊本市に合併。現在の熊本市沼山津。

*一時的な隠棲 … 将来自分を必要とする機会を待ち、俗世間を逃れて静かに住むこと。

*夷慮応接大意 … 外国人と対応する時の心掛け。

*順子 … 竹崎律次郎の妻、熊本女学校校長。

*久子 … 徳富一敬の妻、徳富蘇峰・蘆花の母。

このコーナーは、菅秀隆さん(元横井小楠記念館長)が執筆しています